
ナイン*ブレード

川瀬 瑞樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ナイン＊ブレード

【Nコード】

N0906Y

【作者名】

川瀬 瑞樹

【あらすじ】

超能力が当たり前に存在する世界の中、七騎遙斗はさまざまな事に巻き込まれ、成長していく。

序章

とある廃墟ビル。

都会の街並みに依然と立っているこのビルは何年も放置されたままだった。聞いた話によるとここは不動産屋だったとか。しかしそんな面影はなく、ガラクタや破片があちこちに飛び散っている。さらに、建物の立っている場所が悪かったせいか、真昼なのに少しも日光が入ってこない。完全に真っ暗闇だ。

その建物に一人の女子高生が入ってきた。目がチカチカするほどの金髪にピアス、制服を着ていたがミニスカ…いわゆる「ギャル」という感じだ。

「ここなら存分に使えそうね」

女子高生は辺りを見回して誰も居ないことを確認すると、ポケットから赤黒い石を取り出した。赤黒い石は妙に光っていて何か不気味な印象を持たせてくれる。

「さあ、使う時がやってきたわ」

そういうと、赤黒い石を強くこすり始めた。すると石は熱を帯びていく。

「こそ…」

後ろで物音がした。

女子高生は石をこするのをやめ、もう一度誰か居るのか確認する。しかし人が居る気配はなく、誰もいない。

「幽霊？」

そう思うとだんだん怖くなってきた。女子高生は石をポケットに入れ直すとさっさと建物から退こうとした。

「土川有菜さんですね」

後ろで女性の声がした。恐る恐る振り返るとそこには茶髪でポニテールをした中学生ぐらいの少女が立っていた。どうやら建物に潜んでいたらしい。

「そうよ。なんでアタシの名前知ってんのよ？つーかアンタ誰？」

「私は風春由美。政府直属能力部隊「ライト」の隊員です。あなたが能力暴走石を政府の金庫から盗んだと聞いて逮捕しに来ました」
女子高生はポケットに手をつ込み、石を強く握った。すると石はだんだん熱を帯びていく。

「アタシは盗んではないよ。これは他人から貰ったんだ」

「でも持っているのは事実。法律でも能力暴走石の所持は禁止されているんですから、犯罪に変わりありません。よって…」

突如、由美の会話を遮り、一筋の光線が彼女に襲いかかった。間一髪で何とか避け、態勢を整え直す。

相手の女子高生からは赤い熱気が大量に出ていた。

「どう？これが暴走石のチカラよ！！アタシみたいなしょぼい能力者でもこんなすごいチカラを持っているのよ！」

女子高生が手を上にかざすと、沢山の光線が由美を襲う。

光線のスピードはかなり速いため、避けるのに一苦労だ。

（発光能力者ね…。なら！）

由美は女子高生から遠ざかって光の様子を窺い始める。女子高生の能力は暴走状態だが、威力が増しただけで繊細には操れないようでなかなか由美のところまで光線が追いつかない。そこを狙うというわけだ。

由美は心の中で強く念じ、巨大な氷の塊を発生させて、あちこちに氷の柱を作っていた。

「光線も所詮は光だし、あなた程度の光線の威力なら私の氷は壊れませんよ！」

そんな由美の言葉も聞かずに女子高生は光線を繰り出し続けた。しかし、光線は氷の柱に当たって反射し、由美には当たらない。それどころか反射で危うく自分に当たりにかけている。

「この野郎！絶対に当ててやるからな！」

女子高生は自暴自棄になり、光線を無理やり繰り出した。

「無理ですよ。いくら能力を暴走させてもチカラのコントロールまでうまくなるとは限りませんからね。石を使う前にちゃんとコントロールを学んだ方がいいですよ」

「なにおう！！年下の分際で！ うぎやつ！」

光線が女子高生に当たってしまった。さらに暴走石を使用して能力の威力を高めたおかげで女子高生は衝撃で気を失ってしまった。まさに自業自得である。

「年下とか関係ないですよ」

由美は気を失った女子高生のポケットから暴走石を取り出した。触っても何も変化が起ころなかったため、もう効果は出していないようだ。

石を腰につけているバッグに入れて、女子高生の関節を氷で固め動けなくすると、携帯で仲間を呼んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0906y/>

ナイン＊ブレード

2011年11月13日04時43分発行